

食品ロス削減全国大会 in 徳島 開催事業

危機管理環境部 環境首都課

事業内容

本大会は、平成29年度から全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会が、食品ロスを減らしていくため、消費者を含めた食品ロス削減に取り組む関係者が一堂に会し、フードチェーン全体で連携して取り組んでいくことを共有するという趣旨の下開催している。大会の開催に当たり、協議会が開催地を募集しており、令和元年度は徳島県と徳島市（市民環境部市民環境政策課）の共催で事業を実施した。また、徳島大会では、開催地の徳島市における最大級のショッピングモールであるイオンモール徳島でプレイベントを行い、広報活動を行った。

実施年度	令和元年度
予算	7,752千円
消費者行政強化 交付金活用額	なし
対象	全ての個人、団体
参加人数	600人
宣伝方法	全国自治体へのチラシ配布、 ホームページ掲載、ラジオ等



トークセッションの様子

事業の特徴・ポイント

- ・食品ロス削減推進法制定後「初」の全国大会
- ・都道府県主催では「初」となる全国大会
- ・大会のサブタイトルに「エシカルでひろげよう」を掲げ、徳島県が食品ロス削減をエシカル消費の中核と位置付け、消費者行政新未来創造オフィスと連携し取り組んだ「食品ロス削減に関する実証事業」の成果を発信した。

期待される効果

食品ロス削減に関する取組事例の発表やパネル展示を通じ、企業やフードバンク、学校現場（上板町立高志小学校）における先駆的な取組を発信するとともに、トークセッションでの活発な議論により、「食品ロス削減」に対する意識の醸成を図る。



大会チラシ

大会宣言を行う学校の活動を紹介します



徳島市佐古小学校

佐古小学校では給食を一度全部つぎ分け、一人分の食事量を知り、残食を減らそうとする活動「たべリンピック」を実施しています。この活動により、成長に必要な量を食べ、好き嫌いを減らそうとがんばっています。



徳島市南部中学校

3年生は、1学期から「SDGs」について考える学習をしています。自分たちの「未来」を考え、自分にできることを見つけ、行動していきます。責任ある社会の一員となることを目指してがんばっています。



徳島文理高等学校

私達は「MOTTAINAI」をキーワードに身近な生活の中でできる取り組みを考案しました。余剰食材の有効活用や冷蔵庫の「見える化」また啓発活動では標語や団扇を作成配布しました。どうぞ皆さんも、Take Action!

学校での取組（大会パンフレット）

食品ロス削減全国大会 in 徳島 開催事業

危機管理環境部 環境首都課

エシカル消費啓発のために工夫した点・今後の課題等

- ・大会サブタイトルを「エシカルでひろげよう」とし、食品ロス削減がエシカル消費の一つであることをアピール。
- ・エシカル啓発資材の配布の実施。

参加者の反応・感想

【大会アンケート結果】

○大会満足度

全回答者の95%が「大変よかった」「まあまあよかった」と回答。

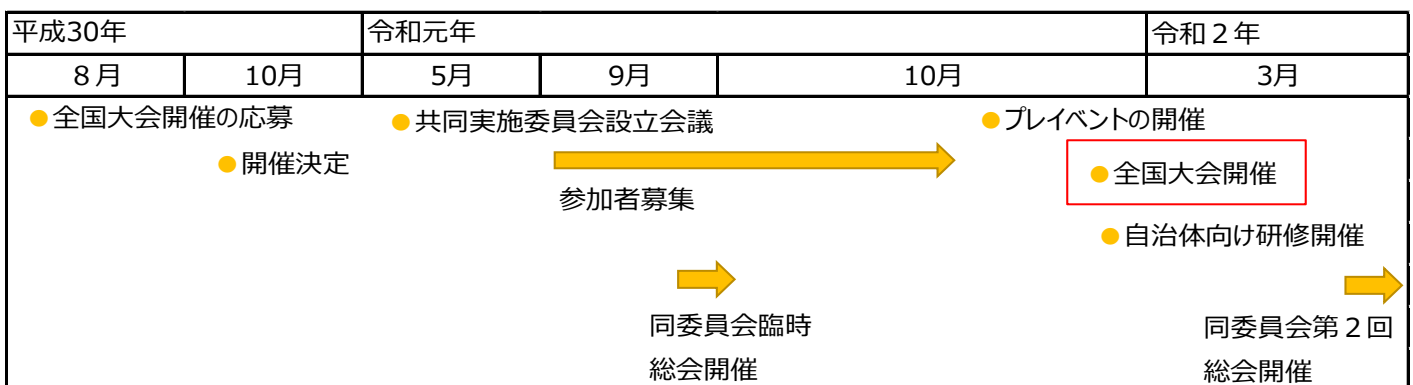
○今後取り組んでみようと思うこと

「買いすぎない・使いすぎないようにする（81%）」や「消費・賞味期限に注意する（65%）」など、消費行動に関する項目に対して高い意欲がみられた。

○自由記入

・個人でも取り組める事の多さに気づいた。・家庭から地球へと意識が変わった。・他業界の活動を知ることができた。

事業年間スケジュール



食品ロス削減全国大会の開催に応募したきっかけ

- ・「徳島県脱炭素社会の実現に向けた気候変動対策推進条例」に食品ロス削減を位置付けている。
- ・平成28年度に「第12回3R推進全国大会」を開催し、ノウハウの蓄積や「拳県一致」体制が構築されている。
- ・県庁内に消費者行政新未来創造オフィスが開設されており、消費者庁の実証フィールドとしての役割のほか、消費者行政の観点から講演会や関連イベントを効果的に実施する環境が整っている。
- ・平成29年度に県庁内に設置した「食品ロス削減に向けた取組に向けた取組タスクフォース」により環境、消費生活、農林水産及び教育関係の連携体制を構築、徳島市においても同様の体制が整備されている。

大会の開催による担当課での気付き

- ・幅広い年代や業種・団体からの取組事例の紹介や発表を通じて食品ロス削減への機運の醸成が図られた。
- ・大会開催を機に、消費者・事業者双方に向けた取組を更に加速させる。